

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春里中学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	自分の学びについて課題設定・計画・振り返りのサイクルを回すことによって、自らの学習を調整することができる資質・能力。	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・定期テスト前に学習計画表を作成したり、学習会や質問会を設け、自主学習を促したりする。【通年・定期テスト前】 ・家庭学習において、スタディサプリやドリルパークの活用を促す。【通年・長期休み毎】 ・学びの指標において「主体的な学び」の項目を、年度内調査において向上させる。【通年・2回】 ・「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、基本的な計算等の反復に取り組むことにより「個別最適な学び」を推進する。【通年・隔週】 ・毎日の記録授業アンケートを活用し、生徒の学習習慣の定着を図る。【通年・未来くるタイム実施時】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	1 結果分析(管理職・学年主任等) 2 詳細分析(学年・教科担当) 3 分析共有(児童生徒の実感把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・英語では、「読むこと・書くこと」において全国の平均を上回ったが、「聞くこと」について全国の平均を下回った。 ・国語では、「読むこと」において全国の平均を上回ったが、「話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する」問題において全国の平均を下回った。 ・重点的に育成する資質・能力の「自分の学びについて課題設定・計画・振り返りのサイクルを回すことによって、自らの学習を調整することができる」と関連する、国語の「書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く」問題において、全国の平均を下回り、課題がみられた。 ・数学では全ての項目において全国平均を上回り、特に「図形」と「データの活用」の領域において顕著であった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・英語と国語の「読むこと」と「書くこと」の問題において、全国の平均を上回っており、日頃の学習活動においてこれらの基本的な技能は身に付いていると考えられる。 ・国語でめられた課題から、日頃の学習活動において「ICTを活用して意見を整理したりまとめたりすること」と「その整理したりまとめたりしたものを考察・分析すること」を取り入れていく必要がある。また、自分がつくったり書いたりしたものについて、交流を通して相対化し、良い点や改善点、今後への転用をふりかえる機会を設ける必要がある。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	1 学校全体での取組 2 単元テスト・定期テスト等の分析・活用 3 中間評価を経ての取組 4 調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	B
↓		
学力向上策の 見直し	・大規模な方針の変更はなし。ただし、タブレットの充電不足や忘れ、未入力がなくなるように、担任を中心として学年職員で声を掛けたり、朝学習中や未来くるタイム中の生徒の様子を観察する必要がある。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

教育研究所